

## 話題60

# 地域医療を守るために 琉球大学に「総合診療内科学講座」の開設を

岡山大学での研修医時代の思い出である。初期研修の早朝特訓があり、いつものように大学病院へと向かった。そこで、医局長に呼びだされた。四国の〇〇病院の〇〇先生が体調不良との連絡があったとのこと。「すぐに応援に向かいなさい」との命令であった。心構えどころか、着替えも準備していない。それから、1か月間の四国での生活であった。大学病院の関連施設であったがために、衣食住、何等の不自由のない1か月間の生活ではあった。

かつての地域医療は、徒弟制度の大学の医局中心の医師研修制度でもって守られ、維持されていた。新たな初期・中期臨床研修制度を契機に、医師数の偏在が極端になった。医師の絶対数は増加したものの、医療過疎の地域が増加した。

沖縄県の地域医療の歴史は、他の都道府県の歴史とは異なる。しかし、持続する安定した地域医療には、大学が地域医療の主役、指導的役割を担う立場にある。基礎医学、臨床医学、社会医学、さらには医療経済学の分野まで守備範囲を広く深く展開していくことが求められる。

沖縄県における医療過疎の問題は、沖縄本島北部と離島の医療が当面の課題になる。県立病院が中核になり、過疎地域の医療を支えてきた歴史がある。しかし、持続可能な地域医療体制を構築するためには、大学の強力なバックアップは欠かせない。

他大学の改革を参考にすると、地域医療を護るためには、大学に「総合診療内科学講座」の開設が基本になるのではないと思われる。レベルの高いプライマリーケアは必須である。講座と連携して、「寄付講座」を設けることを提案したい。「沖縄本島北部総合診療医学講座」、「離島医療総合診療医学講座」の開設である。岡山大学では、加えて「地域医療人材育成講座」、「地域・災害医療学講座」が開設されている。寄付講座は、地方自治体との連携と企業を巻き込んだ開設になる。

既存の初期研修グループとの連携を維持しつつ、大学の各専門分野の力を結集し、新たな総合診療部門の開設から、切れ目のない地域医療の枠組づくりを期待したい。離島県沖縄の医療を可能な限り地域で完結させ、安定した、持続する地域医療体制の構築のための提案である。

# 論壇

岡山大学での研修医時代の思い出である。初期研修の早朝特訓があり、いつものように大学病院へと向かった。そこで、医局長に呼び出された。四国の〇〇病院の〇〇先生が体調不良との連絡があったとのこと。「すぐに応援に向かいなさい」



石川 清司

い」との命令であった。心構えどころか、着替えも準備していない。それから、1カ月間の四国での生活であった。大学病院の関連施設であったがために、衣食住、何ら不自由のない1カ月間の生活ではあった。かつての地域医療は、徒弟

制度の大学の医局中心の医師研修制度でもって守られ、維持されていた。新たな初期・中期臨床研修制度を契機に、医師数の偏在が極端になった。医師の絶対数は増加したものの、医療過疎の地域が増加した。

## 地域医療守る体制必要

### 琉大に総合診療内科講座を

沖縄県の地域医療の歴史は、他の都道府県の歴史とは異なる。しかし、持続する安定した地域医療には、大学が地域医療の主役、指導的役割を担う立場にある。基礎医学、臨床医学、社会医学、さらには医療経済学の分野まで守備範囲を広く深く展開していくことが求められる

る。

沖縄県における医療過疎の問題は、沖縄本島北部と離島の医療が当面の課題になる。県立病院が中核になり、過疎地域の医療を支えてきた歴史がある。しかし、持続可能な地域医療体制を構築するためには、大学の強

力なバックアップは欠かせない。他大学の改革を参考にすると、地域医療を守るためには、大学に「総合診療内科学講座」の開設が基本になるのではないかと思われる。レベルの高いプライマリケアは必須である。講座と連携して「寄付講座」を

設けることを提案したい。「沖縄本島北部総合診療医学講座」

「離島医療総合診療医学講座」の開設である。岡山大学では、加えて「地域医療人材育成講座」「地域・災害医療学講座」が開設されている。

寄付講座は、地方自治体との連携と企業を巻き込んだの開設になる。

既存の初期研修グループとの連携を維持しつつ、大学の各専門分野の力を結集し、新たな総合診療部門の開設から、切れ目のない地域医療の枠組みづくりを期待したい。離島県沖縄の医療を可能な限り地域で完結させ、安定した、持続する地域医療体制の構築のための提案である。  
(名護市、介護老人保健施設「あけみおの里」施設長、69歳)